

2022年度 懸賞論文(学生論文) 受賞者のコメント

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会広報事業専門委員会

2022年度の学生論文は、「あなたが市長なら、どのような“まちづくり”をしたいですか?」および「SDGs達成のために、土木技術はどのように貢献できるのか?」の2テーマで、昨年6月1日から4ヶ月間(締め切り9月30日)募集を行いました。その結果、13編の応募をいただき、厳正な審査の末、優秀賞1編、特別賞1編を選定いたしました。各賞の受賞者の皆様よりコメントをいただきましたので、ご紹介いたします。

【優秀賞】 「神戸市長田区・空き家のクリエイティブ拠点化計画」

受賞者: 松村 大地 (京都工芸繊維大学)

論文概要

- 兵庫県神戸市長田区を題材に、空き家の増加問題に対して、長田区の「アートのまち」という環境の基盤を活かして、空き家をアトリエへとリノベーションし、地域の「クリエイティブ拠点」化することを提案している。
- 「空き家をアトリエとして開く」、「4つの主体(自治体、民間団体、住民、クリエイター)による制度構築」、「文化芸術の作品を通じて長田区を長田区外へ開く」という3つのプロセスを提示し、助成金の活用によりリノベーション費用や資産の維持経費の負担軽減を考

慮した、住民参加が容易な、文化芸術を創造・発信できる環境づくりを検討している。

- 空き家を居住や店舗以外の新たな方法で活用していくことにより、文化芸術の場の創出だけでなく地域に新しいコミュニティを創出し、街中に住民の日常的なコミュニケーションの場を設けられると述べ、一部の空き家補助制度が無償貸し出しのケースに限定されている点について、より柔軟な制度への改変が必要であると言及している。

受賞者コメント



この度は、優秀賞にご選出いただき、大変光栄に思います。本論考は、大学で建築学を学ぶ傍ら、美術作家/キュレーターとして長田区での活動をしているなかから着想を得たものでした。また、2023年3月には、論考内で取り上げた下町芸術祭に関するオープンミーティングを長田区まちづくり課の協力のもとディレクターとして企画・実施いたしました。今後も長田区での実践を継続したいと思っており、さらに考察を深めていきたいです。

訂正

298号「土木施設×Re」におきまして一部誤りがありました。紙面をお借りし、訂正をさせていただきます。

P14 左段最終行	誤	日本鉄道精算事業団	正	日本国有鉄道精算事業団
P28 左段下から2行目	誤	重機関車	正	機関車
P29 左段上から1行目	誤	列車走向	正	列車走行

【特別賞】 「並走する他社路線間を連絡するマイクロ交通ネットワークの可能性」

受賞者: 伊藤 維胤 (東京海洋大学)

論文概要

- 神奈川県横浜市を題材に、複数の鉄道会社が網目状の交通ネットワークを形成している現状に対して、目的地までの所要時間が電車を利用して乗り換えるよりも徒歩の方が短い「代理乗り換え駅」を自転車で繋ぐ、マイクロ交通ネットワークを提案している。
 - ANOVA 分析手法 を用いて、路線間を自転車、徒歩、電車を使って乗り換えた場合の所要時間を比較、検証し、自転車での移動が最も時間短縮されることが述べられている。
 - 鉄道事業者の有する駐輪場や未利用のスペースと既存の自転車シェアリングシステムサービスを融合させることで、より効率的な代理乗り換えが可能になることを言及している。
- ※ANOVA 分析手法: 分散分析ともいい、3以上の異なる群の平均値の有意差を検定する統計手法

受賞者コメント



この度は、特別賞という栄誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。査読及び選考を担当して頂いた皆様に感謝申し上げます。本研究では距離的に乗り換えが困難な駅間を自転車をつなぐ、新たな交通ネットワークに関して提案を行い、統計的視点を以ってその効果を検証しました。普段利用している鉄道路線で、乗り換えにあたり、長い距離を歩いた経験がこの研究の出発点でした。受賞を励みに、これからも精進していく所存です。